Person

「SDGs」を追い風にする

「町の加工屋さん」から時代の先端へ【株式会社栄工業】

先端産業を支える高精度な金属加工技術

ホームページには、「町の加工屋さん」とある。職人気質の親方が数人の弟子を率いて工房で板金加工に奮闘する…。1987年、先代が創業した当初は、そんな光景も見られたことだろう。だが、栄工業の工場に足を踏み入れると、広いフロアには最新の自動化機器が整然と並び、高精度な加工品がシステマティックに生み出されている。転機は、現社長の木浦晋一（このうら）氏が就任した2012年頃。「創業当初は、量産品であるエアコンや自動販売機の部品の加工を中心に受注していましたが、こうした量産品はやがて海外にシフトしていくだろうと予想されていました。そこで、半導体や液晶、二次電池などの製造装置や医薬品、食料などの生産ラインに使われる多品種少量品の受注に注力してきたのです」と、木浦社長は振り返る。こうした先端技術産業が求める金属部品の加工精度は格段に高く、高度な機械設備の導入に踏み切った。とりわけファイバーレーザー加工機とファイバーレーザー溶接加工ロボットは、同社の加工技術力とのシナジー効果で、精度の面でも生産性の面でも優れたパフォーマンスを発揮している。

木浦社長

競争優位を実現する「初号機」へのこだわり

こうした設備導入には、木浦社長の独特なこだわりがある。「導入するなら初号機を、と常々思っています。他社よりも一歩でも早く新鋭機を稼働させることで、こういう加工ができます、こういうスピードで、これだけ低コストで可能です、というアピールができる。当社のような加工業にとって、こうした競争優位はとても重要です」

これらの装置は15年の新工場建設時に導入したが、環境面でも大きなメリットをもたらした。レーザー加工は光学系の装置で、大きな電力でレーザー発振器を動かす必要があるが、電力消費は従来の3分の1だ。また、新工場の設計段階から製造部門の意見を取り入れ、工場内の動線を工夫し、照明を人感センサー式のLEDに切り替え、フォークリフトも電動式にするなど、さまざまな省エネルギー化に取り組んだ。同社のこだわりが品質やコスト、環境に配慮したものづくりを可能にしているのだ。

加工精度の向上と生産コスト削減を両立するファイバーレーザー加工機。

SDGsから海外進出まで全てにスピードを

「無駄な動きをしない、材料や資源を粗末に扱わない、という取り組みは以前からやっているのですが、今はSDGsという追い風が吹いています。当社も従業員の意識改革を図り、持続可能な事業活動を展開するために、SDGs宣言を掲げました」と木浦社長。今後は太陽光発電設備を導入する予定だという。また、働き方改革にも取り組み、さらなる生産性向上とエネルギーの削減を目指す。18年には構想からわずか1年でベトナムに現地法人を設立し、現地サプライヤーを開拓。日本の検査工具を持ち込み、日本基準の検査を徹底することで「ベトナムプライス・ジャパンクォリティー」を実現した。さらにタイとミャンマーにも現地営業所を開設、アフターコロナを見据えた販路拡大に備える。このスピード感が、「町の加工屋さん」からのテイクオフを可能にしてきたのだろう。

DATA

株式会社栄工業

精密板金を中心に、各種金属加工を行う。1987年、栗東市に設立。2015年、現在地に自社工場を建築、移転。18年、構想から約1年というスピードで、ベトナムに現地法人のSANEI TECHNOLOGY VIETNAMを設立、稼働。20年、タイ・バンコクとミャンマー・ヤンゴンに営業所を開設。

代表取締役　木浦 晋一
守山市横江町268番地
TEL.077-581-0035
http://sakae-ind.co.jp